

平成26年度前期 授業改善アンケート 質問項目

		no.	設 問	① ←→ ⑤
学 生		1	シラバスで授業内容を確認しましたか	確認しなかった ~ 十分確認した
		2	教室では授業に積極的に取り組みましたか	取り組まなかった ~ 取り組んだ
		3	あなたの出席状況を評価してください	良くない ~ 良好
		4	授業外で学習(レポートや課題を含む)をしましたか	しなかった ~ 十分した
授 業	内 容	5	授業はシラバスに沿って行われましたか	シラバスと異なる ~ シラバスに沿っていた
		6	授業内容を理解できましたか	理解できなかった ~ 十分理解できた
	教 え 方 等	7	説明が明快でしたか	分かりにくい ~ 明快
		8	話は良く聞き取れましたか	聞き取りにくい ~ 聞き取れた
		9	板書、OHP・PowerPoint等は授業を理解する上で効果的でしたか	改善して欲しい ~ 効果的
		10	配布資料、教材等が効果的でしたか	改善して欲しい ~ 効果的
環 境 ・ 設 備 等	11	学習環境(人数、部屋の広さ等)は良好でしたか	良好でない ~ 良好	
	12	参考書等が図書館に揃っていますか	不足 ~ 揃っている	

1. 概評

すべての項目について全学平均以上の数値であり、総体的に良好な結果を維持している。

しかしながら今期は、昨年度後期から 0.1 ポイント下回った項目が2/3におよび、なおかつ下方回答が散見される。下方回答は、「学生」・授業「内容」より、授業の「教え方等」「環境・設備等」に集中しており、これらを減らすべく、教員各自が結果を丁寧に確認する一方で、非常勤を含めた情報共有に努める。

なお、学科平均を下回る科目に関しては対策が急がれるが、ここ数年の傾向として、受講者数の少ない科目が高評価で、受講者数の多い科目が低評価である。学生の二極化・質的变化も軽視し得ず、受講生の多い講義中心科目になると授業運営の難しい点が考えられる。また、併せて混み合った教室という学習環境に対する不満も反映されている可能性がある。

(上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5 ≦ <3	3≦ <3.5	3.5 ≦ <4	4≦	評価と対策
1	4.1	0	0	0	3	39	78	[学生] 学科平均は良好な数値を維持している。 但し、昨年度後期だけでなく、前期と比較しても、全体に下方回答が増えている。まだ大学生活やシステムに不慣れな新入生、即ち自主的な学習態勢を取れない者がいるということで、普段から「単位の実質化」について、教員・学生共々に徹底する必要がある。
2	4.2	0	0	0	1	32	87	
3	4.4	0	0	0	0	7	113	
4	4.1	0	0	1	11	23	85	
5	4.2	0	0	0	3	26	91	[授業[内容]] 学科平均は良好な数値を維持している。 但し、昨年度 no.6 (授業内容の理解)は、昨年度前期に比べても下方回答の幅が広がっている。これまでとは受講生の傾向や質が異なる例もあるが、日文の教員も入れ替わりが進んでいるので、そうした傾向や質の異なる受講生にどのように対応すべきか、より一層密な情報共有や連絡の要がある。
6	4.1	0	1	2	10	34	73	
7	4.2	1	0	2	11	22	84	[授業[教え方等]] 学科平均は、良好な数値を維持している。 但し、no.6 (説明の明快さ)、no.10 (配付資料・教材の適切性)が、ともに3年ぶりに 0.1 ポイント下回った。とはいえ、前年度前期における4以上の評価率よりは上回っている。分かりやすい授業のための工夫は各授業で努力され、受講生にもその点は伝わっていると思われる。 なお、この区分においては、数値の低い科目が見られるので、早急にその原因を特定し、対策を講じる。
8	4.3	1	0	0	7	22	90	
9	4.1	1	1	0	16	30	71	
10	4.2	1	0	2	4	25	88	
11	4.3	0	0	0	1	21	98	[環境・設備等] さほど暑い時期がなかったせいか no.11 学習環境については、昨年度前期に比べて 0.1 ポイント上回った。 一方、no.12 参考図書については、前年度よりも下方回答が多くなった。各授業での周知徹底が必要である。
12	4.0	0	0	0	9	48	63	

3. 今後の方針

本学科は、すべての項目について全学科平均以上の数値であり、総体的に良好な結果を維持している。が、学科の推移という点では、今期は昨年度と比べて下方回答が散見される。これら下方回答を減らすべく、教員各自がそれぞれの結果をよくよく吟味し確認する。また、常勤教員は科会等で、非常勤の先生方にはアンケートを実施して、学生の傾向や課題点などの情報を共有する。

1. 概評

学科平均が全体平均より上回っているものが、12項目中6項目(No.2,4,8,9,11,12)で、それ以外の6項目(No.1,3,5,6,7,10)が同じ数値という結果であった。全体平均より下回った項目が無かった点を考慮すると、今学期の評価はある程度満足できるものと考えている。

【学生】

4項目中、2項目(No.2,4)が全体平均より上回っており、それ以外の2項目(No.1,3)は全体平均と同じ数値となっている。他の項目とすると比較的高い数値となっているので、これらの項目はこのまま継続して伸ばしていきたいと考えている。

【授業(内容)】

2項目(No.5,6)とも、全体平均と同じ数値となっている。比較的良好な評価と言えると思われるが、学生のニーズや期待値を更に分析して、これからのカリキュラムを改善して行く必要があると考えている。

【授業(教え方等)】

4項目中、2項目(No.8,9)が全体平均より上回っており、それ以外の2項目(No.7,10)は全体平均と同じ数値となっている。全て4ポイントを超えて比較的良好な評価と言えるが、更に効果的な授業運営を目指して、先生方と研修等を続けて行く必要があると考えている。

【環境・設備等】

2項目(No.5,6)とも、全体平均を上回っており、平均4ポイントも超えている。「教室環境」、「図書館利用」とも、先生方からの協力のもと、学科の教務で教室設定や図書の推薦に関する配慮を行なっていることで、継続してポイントが伸びてきていると考えている。

(上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5≦ <3	3≦ <3.5	3.5≦ <4	4≦	評価と対策
1	4.0	0	0	0	14	65	90	【学生】 ・No.1とNo.3は、前年度と比較すると、両方とも同じポイントとなっている。 ・No.2とNo.4は、前年度と比較すると、両方とも0.1ポイント上昇している。 ・4つの質問の回答数のバランスを見ると、比較的高いポイントの方に数値が集まっているので、これらの項目に関しては、学生からの高い評価が得られていると思われる。更に、授業内での繰り返し指導等を実践していきたい。
2	4.3	0	0	0	0	26	143	
3	4.4	0	0	0	0	8	161	
4	4.3	0	0	0	1	25	143	
5	4.2	0	0	1	5	29	134	【授業[内容]】 ・No.5とNo.6は、前年度と比較すると、両方とも同じポイントとなっている。 ・これらの項目のポイントの詳細を見ると、低い評価を得ている科目が見られることが気になる点である。
6	4.2	1	0	1	11	30	126	
7	4.2	1	1	4	16	22	125	【授業[教え方等]】 ・No.7とNo.10は、前年度と比較すると、両方とも同じポイントとなっている。 ・No.8とNo.9は、前年度と比較すると、両方とも0.1ポイント上昇している。 ・上記の【授業[内容]】と同様、各項目のポイントの詳細を見ると、低い評価を得ている科目があることが気になる。3ポイント以下の回答が継続して見られるので、この点は大学並びに学科のFD活動等を通して、先生方と改善に取り組んでいく必要があると考えている。
8	4.3	1	1	3	8	23	133	
9	4.2	1	1	2	10	33	122	
10	4.2	1	0	1	11	29	127	
11	4.4	0	0	0	3	18	148	【環境・設備等】 ・No.11とNo.12は、前年度と比較すると、両方とも0.1ポイント上昇している。 ・これら2項目は継続的にポイントが上がっている項目であるので、今後も学科として更に向上させていきたい。
12	4.1	0	0	1	12	50	106	

3. 今後の方針

- 学科平均を前年度と比較すると、0.1 ポイント上昇した項目が 12 項目中 6 項目 (No.2,4,8,9,11,12)、同じポイントだったのがその他の 6 項目 (No.1,3,5,6,7,10) という結果であった。最近の結果と比較しても、継続してポイントが上がっている項目が多く見られるので、概ね良い結果であると言えると思われるが、全体的な伸びという点では、少々ペースダウンしている感じもする。
- 先の「評価と対策」にも記載した通り、ここ数回の傾向と言えるのだが、[授業[内容]]と[授業[教え方等]]の各項目の回答が分散傾向にあり、低い評価を得ている科目も見られる。これらの項目の評価を改善していくことが求められていると思われる。より分かりやすく効果的な授業実施を目指し、学科の教員の大学や学科主催の FD 活動への参加を更に促していかなければならないと考えている。

1. 概評

前期開設科目のうち、92科目（複数教員担当授業は1科目とする）でアンケートを実施した。学科平均と全体平均を比較すると、全体平均を上回る項目が1（問No.1）、やや下回る項目が2（問No.6、No.12）、全体平均と同じ項目が残り9項目であった。前年度とほぼ同じ傾向であり、24年度まで平均を下回る項目が半数近かった状況から授業改善が行われ、その成果が定着しつつあることを伺わせる。特に「配布資料や教材が効果的」が昨年は全体平均を下回っていたが今年度は全体平均にまで上がっている。この1年で配布資料などの見直しが行われたものと考えられる。

長年の課題であった教室環境と参考図書といった施設面については、教室環境は改善が見られた。授業形態・受講者にあった教室の確保が出来たと言える。一方、参考図書の充実はまだ不十分と言える。引き続き、図書館へ積極的に要望を出すよう教員が努力すると共に、学生にも希望を出すよう呼びかけて行きたい。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	4.0	0	0	0	3	35	53	[学生] No.1は前年度に引き続き、全体平均を上回ることが出来た。学生の中に履修登録方法が定着したと言える。 従来全体平均を下回っていた2・3・4については前年度同様全体平均と同じであった全体平均を維持できていることは各授業での取組によって改善が行われていることを示している。 1年次必修の「歴史文化基礎」は自主的な研究をする指導に力を入れており、その成果が少なからず反映されているものと思われる。今後も継続して指導を続けて行きたい。
2	4.1	0	0	0	1	32	58	
3	4.4	0	0	0	2	1	88	
4	4.1	0	0	0	6	27	58	
5	4.1	0	0	0	3	25	63	[授業[内容]] 昨年全体平均を上回ったNo.6が今年度は全体平均よりポイントを下げた結果となった。教員間でこの結果を共有し、学生が授業内容を理解できるような工夫、改善を促して行きたい。
6	4.0	0	0	1	1	35	54	
7	4.1	0	0	1	5	22	63	[授業[教え方等]] すべての項目で全体平均と同じであり、前年度と同じ傾向と言える。学科必修科目は何れもやや低い傾向があるが、同一担当者の他の授業に於いては結果が異なるため、学生の意識が影響していると考えられる。担当者のみの問題ではなく学科として必修科目について検討して行きたい。 前年度No.8でポイントの低い授業については改善を促し、ポイントを上げることが出来た。
8	4.2	0	0	0	6	15	70	
9	4.1	0	0	1	6	31	53	
10	4.1	0	0	0	3	25	63	
11	4.2	0	0	0	2	21	68	[環境・設備等] 教室環境がようやく全体平均と同じポイントとなった。授業に対応した教室の確保が出来たことが伺える。図書については学生にも希望を出すよう指導して行きたい。
12	3.8	0	0	1	7	53	30	

3. 今後の方針

本学科の学生は、授業に真面目に取り組むものの授業外での学習に弱い点が、ここ数年の課題であった。そこでその課題を改善すべく学科として取り組んできた(下記①～④)。前年度より全体平均までポイントを上げ、今回もその結果を維持することができたことは学科での取組の成果が定着しつつあることを伺わせる。従って、この取組を継続し、さらなる学生の自主性を引き出すよう取り組んで行きたい。

学科の取組

- ① 1年生の必修授業(「歴史文化基礎」)で取り組むそれぞれのテーマについて、自分で調査し、その調べたことを整理し、授業で報告する。というスタイルを徹底し、自主的・主体的な学習と学ぶ姿勢を養ってゆく。
- ② 2年生以上では、必修授業での課題の徹底、ゼミでの夏期研修旅行、海外研修プログラムの参加、昭和女子大学文化史学会への参加などから、自主的・主体的な学習と学ぶ姿勢を養う。
- ③ シラバスに沿った授業展開を各教員に働きかける。
- ④ 各教員に対し、FD 講演会・サロンへ積極的に参加するよう呼びかける。

なお、今回の結果(評価の低かった2項目)を踏まえ

- ① 各授業の評価結果をもとに、ポイントの低い項目が多い担当者に対して、学科から改善を促す。
- ② 参考図書の充実に向けて、教員・学生共に図書館へ図書の購入希望を申請する。

1. 概評

前期開設の135科目でアンケートをとった。全体平均をしたまわるのはno.1のみであった(-0.2)。他は変化がない。学生の能動的な学習という側面(no.4)で、昨年度から変化がなく、自学自習がたりない様子がうかがえる。学科創設から6年がたち、検定試験の結果を見るかぎり、着実に成果はあがっているものの、学生はいまだ受動的な学習の習慣からぬけられないでいる。この点、今後の課題として、とりくむ必要を感じる。

(上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.7	0	1	5	32	54	42	[学生] 前期比／前年度比はつぎのとおり(以下同様)。no.1 -0.1/-0.1, no.2 ±0/±0, no.3 +0.1/±0, no.4 ±0/±0。シラバス確認が-0.1ポイント、4点台の壁があつい。出席は+0.1ポイント、1,2年生は学科登録科目が多く、シラバスをよむまでもないと判断するのであろう。とくに新入学生がはやくシラバスになれるよう、履修ガイダンス期間に指導を徹底する。
2	4.1	0	0	0	4	38	92	
3	4.4	0	0	0	0	9	125	
4	4.1	0	0	0	4	39	91	
5	4.1	0	0	0	2	42	90	[授業[内容]] 前期比／前年度比とも変化なく、極端に評価がひくい科目もない。講義内容はおおむね理解されているものの、3.0未満の科目がでないよう教員に助言する。
6	4.1	0	0	3	7	35	89	
7	4.1	0	1	3	9	24	97	[授業[教え方等]] 前期比／前年度比は、no.7 -0.1/-0.1, no.8 -0.1/±0, no.9 ±0/±0, no.10 -0.1/±0。おなじ科目が数値をおしあげている。昨年度みられなかった現象だけに、今後のなりゆきを注視する。
8	4.2	0	1	1	8	19	105	
9	4.1	0	1	2	6	29	96	
10	4.1	0	0	2	8	33	91	
11	4.2	0	0	2	6	16	110	[環境・設備等] 前期比／前年度比とも変化なし。教室、講堂がふえたにもかかわらず、学科の学生が利用する機会がすくなく、PRされていないようである。
12	3.9	0	0	1	8	65	60	

3. 今後の方針

- ① 必修留学の時期が2年後期に統一されたことで、留学まえの教育をてあつくすることができるようになった。今後、ドイツ、フランスの協定校をつくり、学習のインセンティブをつよくなる。
- ② 中国語にならば韓国語もダブル・ディグリーを視野に、講義履修が可能な語学力をやしなう。
- ③ 新カリキュラムがはじまり1年半がすぎた。それによって、どんな効果があったかを調査して、学科がひらく科目群をしばらく準備をする。

1. 概評

学科設立2年目であり、2年生が全て昭和ボストンでのプログラムを履修しているため、前期の回答者は1年生のみである。昨年度の評価は、総じて大学全体平均よりもやや低めとなっていたが、本年度は、1年生が学科定員に近似した110名程度となり、新校舎の稼働開始とも相まって、授業内容（内容理解、聞き取りやすさなど）、教室環境（教室の快適さ）に関わる項目を中心に改善傾向にある。現カリキュラムでは、1年次の専門教育科目の全てが必修科目であり、学生の履修計画に占める学科必修科目の割合は概ね85%以上、スキル系科目と経済・経営系科目のコマ数比率は5:2である。授業への参加状況は良好であり、スキル系科目（英語やコンピュータ、基礎ゼミ等）においては、1期生のTOEICスコア改善の実績や初年次教育プログラムの体系化を踏まえた講義運営、経済・経営系科目においては、昨年の評価結果を受けたプレゼンテーションや課題演習といった対話型・アクティブラーニング型の講義運営が定着し始めた。今後も、学生による授業外学習の推進を図る他、改善可能な事柄については、教員間の情報共有を進め、年度途中であっても即応できるような体制づくりを進めたい。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.5	0	0	1	16	18	1	[学生] 出席状況、授業外学習については概ね良好である。しかし、1年生の標準的履修モデルにおいて、多くが必修科目に割かれるためか、前年と同様、講義シラバス読後に講義に臨む姿勢・習慣の確立が不十分であった。引き続き、当該講義を履修する意味を理解し、授業への積極的な参加に結び付ける工夫が必要であり、学期始めのガイダンスや各講義初回での周知徹底を通じて、シラバスの意義の理解と自ら学ぶ学習姿勢の醸成に取り組んでいきたい。
2	3.9	0	0	0	2	19	15	
3	4.2	0	0	0	2	7	27	
4	3.9	0	0	0	1	21	14	
5	3.8	0	0	0	6	21	9	[授業[内容]] 1年次プログラムは、2年次のボストン留学と連動した内容を盛り込んでいる。そのため、当該講義の学習内容が、ボストン留学や3年次以降の学修とどのように関連付けられているかを理解できるよう、講義内で明示的に示すことが、受講動機を高め、学習のリズムづくりに重要と認識している。
6	3.8	0	0	3	5	11	17	
7	3.8	0	0	5	5	8	18	[授業[教え方等]] 初年次教育において、学生が講義への分かり易さを求める傾向が、自由記述欄からも読み取れる。プレゼンテーションの習慣化やSNSと連動させた対話型講義運営など、アクティブラーニングに積極的な教員が増加し、学生の講義への参加意欲について、一定の評価を維持している。 また、経営・経済系講義(50名程度)においては、1年次から専門領域に分かれた講義内容で実施されるため、各領域間の相互関係を理解させるための努力が必要である。一部共通のケースやトピックを用いる、或は重要概念の説明の際、他分野の視点からの解釈を試みるなど、試みを実践していきたい。
8	3.9	0	0	4	3	8	21	
9	3.8	0	0	4	5	8	19	
10	3.9	0	0	1	7	10	18	
11	4.1	0	0	0	2	10	24	[環境・設備等] 新校舎の稼働に合わせて、教室内環境は一定の改善をみている。しかし、教室定員に近い人数での講義も多く、対話型講義においては、教員が自由に動くことのできるスペースの確保や、グループ学習の環境づくりへの課題もある。グループ学習に適した机の配置を常態化する等の試みを実践したい。
12	3.7	0	0	0	12	16	8	

3. 今後の方針

1. 経済・経営系科目、スキル系科目(英語やコンピュータなど)のそれぞれに担当教員間の対話を随時行い、目標と対応事項を定め、効果的な教授法の開発と共有を図る。また、学生の自主性を涵養できるよう、課題内容、提出物管理、フィードバックの工夫に努める。
2. 1年次(初年次教育及びボストン留学準備)、2年次(ボストン留学後のフォローアップ)、3年次(専門科目の集中履修とプロジェクト型学習)の各段階において、基礎演習科目のコーディネーターを置き、統一的な目標設定とプログラム管理を行う。
3. 経済・経営系科目においては、ボストン留学を控えた1年生に対して、ボストンで英語による専門科目の講義が行われることを念頭に、日本語と英語での専門用語の理解を促していく。また、2年生に対しては、3年次以降にプロジェクト型学習が展開されることを念頭に、授業外学習の習慣化とアクティブラーニング(ディスカッション・プレゼンテーション・課題演習)を継続して推進し、ボストン留学後のモチベーションの維持向上をはかる。
4. スキル系科目(英語)においては、1年生に対して、昨年度のTOEICスコア改善の経験を基に英語力向上プログラムの体系化に取り組むと同時に、2年生に対しては、ボストンで培った英語力を維持するための講義構成を通じたフォローアップを充実させていく。
5. FD講演会、FDサロンへの参加を通じた新たな教授法の習得に努める。また、ボストン校教員との情報交流を進め、ボストンプログラムとの連動の仕組みづくりに努める。

1. 概評

各項目の平均点、得点の分布ともに、前年度同学期と同様の傾向であり、学生の学習態度、教員の授業運営双方とも良好な状態を堅持している。学生の授業外の学習活動が一層増えるような授業運営の工夫と学生への働きかけを行っていく。図書館については、利用の案内、蔵書紹介等を授業の中でも積極的に行っていく。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.9	0	0	0	3	19	22	[学生] No.2(授業への積極性)、No.3(出席状況)、No.4(授業外学習)は、昨年度と同様、高い得点であり、授業に対する学生の意欲の高さがうかがえる。今後も学生が授業内容を事前に確認した上で、主体的に学習に臨むことを促していきたい。授業外での学習活動を意識化できるように各教員で働きかけていく。
2	4.0	0	0	0	0	17	27	
3	4.4	0	0	0	0	0	44	
4	4.1	0	0	1	1	14	28	
5	4.0	0	0	0	1	15	28	[授業[内容]] 2 設問とも昨年度とほぼ同様の得点であった。今後もシラバスの内容について学生と共有した上で、学生の理解を促す授業運営を心掛けていきたい。
6	3.9	0	0	0	3	19	22	[授業[教え方等]] 板書、視聴覚教材、配布資料等が学生の授業理解に有効に活用されていることがうかがえた。今後も引き続き授業方法の改善と向上を目指して精進していきたい。
7	4.0	0	0	1	4	11	28	
8	4.1	0	0	0	6	6	32	
9	4.0	0	0	0	4	15	25	
10	4.0	0	0	0	2	17	25	
11	4.1	0	0	0	1	11	32	[環境・設備等] 図書館の蔵書については、今後も教員が参考書籍の購入依頼を積極的に行うことで充実を図るとともに、授業内でも学生に広報することで、図書館の活用を促していきたい。
12	3.8	0	0	0	2	32	10	

3. 今後の方針

- 12 問中、9問が 4 点以上であり、学生の授業に向かう姿勢、教員の授業運営双方ともに良好といえる。授業内容や教え方などに関しては、今後も教員間の情報交換を密にし、授業の質の一層の向上を目指す。
- 図書館の蔵書に関しては、各教員が担当授業科目における参考書籍の購入依頼を積極的に行うことで充実を図るとともに、学生への指導、広報を引き続き行い、学生が図書館をより活用するように促していきたい。
- 各教員の授業の質の向上を目指すために、引き続き授業公開を行い、授業運営に関する教員間の意見交換、情報共有を一層図っていく。

1. 概評

本学科は2年次からコース毎に幅広く専門科目を履修し、社会福祉士・精神保健福祉士の受験資格および保育資格が取得でき、受講動機やキャリアデザインの明確な学生が多いため、毎年授業の出席状況は高評価である。授業外での学習では、前年度に比べ0.1ポイントアップし、全体の学習時間は増えている。授業内容、授業の教え方に関しては、教員による授業内でのプレゼンテーションや板書、およびパワーポイントの有効な活用とともに、前年度よりすべて0.1ポイント高く評価されており、効果的な授業工夫と授業内容の理解向上の相関が示された。シラバスの事前確認のみ、全体平均と同評価であるが、前年度とくらべ0.1ポイント低い評価となる。受講生の多い授業や実技等の授業で評価が低いため、教務による学科内履修ガイダンス等で、履修時や授業初回時のシラバス確認を周知徹底していきたい。国家試験対策のための授業に関して、すべての項目で0.1～0.8ポイント上がり、オムニバスで担当する各教員による授業工夫が、学生のモチベーションや内容の理解向上につながったと考えられる。参考図書の整備については、各項目と比べて評価が低く、今後も教員・学生が積極的に図書リクエストするなど、学科全体で図書の充実を図れるよう取組んでいきたい。

2. 各項目の評価

no	学科平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5≦ <3	3≦ <3.5	3.5≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.9	0	0	0	6	47	39	【学生】 問1(シラバスの事前確認)のみ、平成25年度に比べて0.1ポイント下がり、全体平均と同評価である。シラバスの内容が理解できていない場合、事前学習や自宅での学習が不十分となる可能性がある。授業の進行に応じてシラバスを確認し、計画的に学習を進めていくよう指導していく必要がある。具体的には新年度の学生向け履修ガイダンスで指導し、また授業後のシラバス変更に関しては、授業内でアナウンスしていただくよう、各担当教員に促していく。問4(授業外での学習)においては、これまで改善を要するとされた国家試験対策講座での自己学習の評価が0.1ポイント上がり、各教員による自宅学習用のノート作成指導、提出、添削、再指導といった丁寧な学生指導による効果がうかがえた。
2	4.1	0	0	0	1	23	68	
3	4.5	0	0	0	0	3	89	
4	4.2	0	0	1	3	17	71	
5	4.1	0	0	0	3	30	59	【授業[内容]】 問5(シラバスと授業の一致)は、平成25年度および、全体平均と同様である。問6(授業内容理解)は、0.1ポイント上がっている。低い評価は、問5では演習系、問6では講義系の科目にみられた。授業担当者が個々に作成する改善報告書の結果を踏まえ、改善策を図れるよう取組んでいく。具体的には学生の授業理解の向上を図るため、事前学習のための課題提示等を各教員に働きかけていく。
6	4.1	0	0	2	1	25	64	
7	4.2	0	0	1	3	22	66	【授業[教え方等]】 問8(聞き取りやすさ)、問10.(配布資料)は平成25年度と同評価であるが、問7(説明の明快性)、問9(板書・パワーポイントなどの効果的な活用)は、0.1ポイント高い評価となる。国家試験対策講座では、問7～問10.で0.2～0.8ポイント上がり、特に問9は0.8ポイント上昇し、オムニバスで担当する各教員の授業工夫の効果がうかがえた。問10.では、5、0の高評価の科目が専任、非常勤教員ともにあり、配布資料、教材等が効果的に活用されている。今後も非常勤懇談科会や学科内公開授業等で報告していただくなど、相互の教育活動に活かす機会を設け、教員間で共有していきたい。
8	4.2	0	0	1	2	21	68	
9	4.1	0	0	1	0	27	61	
10	4.1	0	0	0	1	28	62	
11	4.2	0	0	1	3	14	74	【環境・設備等】 問11(教室環境)は、前年度と同様であるが、学生に概ね良い環境を提供していると考えられる。受講生の多い授業では、適した教室を確保するうえで、1限や5限への時間割変更等、授業担当教員に働きかけていく。問12(図書の整備)については、前年度同様3.9と低い評価である。今後も図書の充実を図り、その活用について学科内で協議していく。具体的には、科会や資格・コース会議等で、図書、資料に関するリクエストが募れる仕組みを設け、偏りなく購入できるよう工夫を図りたい。
12	3.9	0	0	0	6	43	43	

3. 今後の方針

基本的には前年度の方針を踏襲する。

1. 学科内ガイダンスの一層の強化

資格関連の必修・選択必修、コース必修・選択必修科目等、学生がそれぞれの科目内容を理解し、履修できるよう教務部委員によるガイダンスの一層の工夫と強化を図っていく。

2. 常勤教員間の連携強化

資格・コース内の授業を学科教員間で公開・参加できるようにし、福祉社会学科における教育理念の共有化を図り、授業内容に反映できるよう努めていく。また授業工夫等相互の教育活動に活かせるよう、教員間の連携に基づく情報共有の場として設けていきたい。

1. 概評

すべての項目において4.0以上の結果であり、12項目中8項目が平均以上、4項目が平均と同値と、高評価である。また、前年度と比較しても、0.1ポイント以上上回った項目が多く、学生・教員ともに改善に努めた結果と言ってよいのではないだろうか。
 ソーシャル・スタディーズ、メディア・スタディーズ、グローバル・スタディーズの3つのスタディーズを設けたカリキュラムがスタートして2年目になる。授業公開を3つのスタディーズごとで前期と後期に行い、教員間で授業後にディスカッションをし、お互いの授業の関係性や方向性を確認し合っている。授業の質を上げる努力の成果が、少しずつ現れてきていると思われる。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	4.0	0	0	0	6	50	79	[学生] シラバスの事前確認 (no.1)、授業外での学習への取り組み (no.4)が低い傾向にある。次いで、授業への積極性 (no.2)が低い結果となっている。 シラバス確認については毎回のようガイダンス時に促しており、教員によっては第1回目の授業で配布し説明するなど改善に向けた努力をしている。4.0という結果は決して悪い結果ではないと思うが、努力の結果がなかなか現れない。 授業外での取り組みについては、英語では e-learning の徹底に向け、ワーキンググループで話し合いを重ねている。その他の科目についても、課題やレポートなどで先生方に工夫をしていただくよう、学科で検討していきたい。
2	4.1	0	0	0	3	40	92	
3	4.4	0	0	0	0	5	130	
4	4.2	0	0	1	5	24	105	
5	4.2	0	0	0	2	25	108	[授業[内容]] シラバスが充実し、内容に沿った授業が展開されていることが伺える結果である。no.6については、no.2の積極的に授業に取り組んだかどうかということと相関関係にあるとも考えられる。授業外での学習時間を増やすことは、授業内容の理解を高めることに繋がるはずである。学生には、授業外での積極的な学習を促して行きたい。
6	4.1	0	0	2	4	43	86	
7	4.2	0	1	2	6	31	95	[授業[教え方等]] どの項目においても高い結果が出ており、概して学生の満足度の高い授業が行われていることが伺える。 ただし、評価にばらつきが見られるのも確かである。授業のタイプによっては、PowerPoint 等を使用しないものや、配付資料の多少の差があると思われる、その差が評価に違いを生んでいるとも考えられる。また、自由記述欄を見ると、板書の字が読みにくいなどのマイナス要素も目につき、授業の内容とは無関係に評価を落としている可能性も考えられる。
8	4.2	0	1	2	6	21	105	
9	4.1	0	1	1	7	36	88	
10	4.2	0	0	1	4	34	96	
11	4.3	0	0	0	1	15	119	[環境・設備等] 学習環境に対する満足度は高い。しかし、受講生の多い授業では、人数に対して部屋が狭すぎる、などの記述が何件もあった。また、参考書の充実度に対する評価が前年度よりも上がっている。これは、図書館と連携して参考書の充実に向けた結果である。さらなる充実を図っていきたい。
12	4.0	0	0	0	3	49	83	

3. 今後の方針

過去の結果と比較すると、全体的に数値は上向きであり、確実に改善されてきていることがわかる。

現代教養学科では、授業の改善・充実のための一つの方法として、3つのスタディーズごとに授業公開を行い、授業後にディスカッションをすることで、教員間での授業の関係性や方向性の確認に努めている。今後もできるだけ授業公開に参加し合うことで連携を図り、情報交換に努め、よりよい授業の方法を模索して行きたい。また、図書館の協力を仰ぎ、これまで少なかった社会学系の図書の充実をお願いしている。今後も引き続き進めて行きたい。

自由記述欄への書き込みは少ないが、教室が広すぎてホワイト・ボードが見にくい、板書が読めない、声が聞き取りにくい、真面目に受けていない学生がいて気になった、教室が暑い・寒いなど、授業環境に対するものが目に付く。また、授業内容に関しての記述では、難しかったが楽しかった、これまで知らなかったことが分かってよかった、興味を持って受講できた、などプラスの書き込みが多く見られた。特に、参加型の授業は学生の満足度が高い傾向にあるようだ。

やはり、学生自身が授業にどれだけ興味を持って積極的に取り組めるか、ということが一つの授業の評価にも繋がっていくと思われる。受け身ではなく、自主的な授業参加を促すような授業運営について、学科でも話し合っていきたい。

1. 概評

全体的に学生の評価は平均値を上回っている。但し、教員側の実感として授業態度や履修状況に若干問題がある学生がいたり、授業外での活動が不十分であったりする面もあり、学生の自覚を促しさらに改善をはかる取り組みが求められる。教員の指導方法についても比較的高い評価を得ているが、評価に甘んじることなく、学生の状況に合わせた改善の取り組みや、さらに積極的な学生の学習活動を促す取り組みを継続していきたい。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	4.0	0	0	3	10	33	54	<p>【学生】</p> <p>いずれの項目においても全体平均を上回っており、学生たちが積極的に授業に取り組んでいると評価できる。有意な数値の変化かどうかは不明だが、「積極的な授業への取り組み」、「授業外での学習」について、若干(0.1)平均点の低下がみられ、学生のモチベーションを維持する取り組みを意識的に続ける必要がある。</p>
2	4.3	0	0	0	0	11	89	
3	4.6	0	0	0	0	1	99	
4	4.2	0	1	1	4	13	81	
5	4.2	0	0	1	2	24	73	<p>【授業[内容]】</p> <p>授業内容とシラバスの対応、授業の理解については、例年通りの結果である。平均よりは高水準を維持しているが、担当者によって、ばらつきがあるので、教員全体の意識を高めることで、改善の余地がある。</p>
6	4.2	0	0	1	3	13	83	
7	4.3	0	0	2	2	12	84	<p>【授業[教え方等]】</p> <p>教え方についても、学科平均は、全体平均を上回っているが、評価の高い授業と、厳しい評価を受けている授業の差が大きい。教科目の特性もあり、一概に担当者の力量の問題とはいいがたいが、教員全体でさらに理解しやすい授業を行うための努力を継続していきたい。</p>
8	4.3	0	0	2	1	10	87	
9	4.2	0	0	2	2	15	80	
10	4.2	0	0	2	1	16	81	
11	4.3	0	0	1	0	11	88	<p>【環境・設備等】</p> <p>設備、環境について、環境改善につとめた成果が上がりつつあり、満足度が上がっている。ただし、専門必修科目については、どうしても受講人数に対して、教室が狭くなってしまう講義が残されており、いくつかの授業で更なる改善の努力をする必要がある。</p>
12	4.1	0	0	1	3	25	71	

3. 今後の方針

①学生に関して

受講態度、出席状況について、学生の自己評価は高い。ただし、実態として、若干ではあるが私語や居眠りがあったり、授業外での活動が不十分であったりする面もあり、教員の指導が必要な点が見られ、評価を単純に喜んでばかりはられない。学生自身がそのことを認識し、自己改善に努められるような継続的指導が必要である。

②授業について

教員の様々な工夫が実を結んでいる。今年度は、新たに、電子黒板とタブレットを学科に購入し、学校現場に取り入れられつつあるICTの効果的な活用や、アクティブラーニングの積極的な取り入れを学科全体の課題として取り組んでいきたい。

1. 概評

昨年度前期と比較すると、問 2, 3, 4, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12 が+0.1、あるいは 0.2 であるとは同点であり、多くの項目で平成 25 年度前期より評価点が上昇した。平成 22 年から概ね評価点は現状維持から微増していると考えられる。しかしながら、大学全体と比較すると、やや下回っており、問 3, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12 について-0.1 であった。過年度のように 0.1 を超えて下回ることはなかったが、さらに教員同士で切磋琢磨して教授法をスキルアップしていきたい。

本学科で一番低いスコアは今回も問 12 であった。教員からの図書のおすすめを進めるとともに、各授業での積極的な図書館利用アドバイスを行っていきたい。本学科はデザイン系の科目から哲学系自然科学系と幅広く学び、さらに実験実習系の科目が必須となっている。これらの科目間の評価差は大きいですが、評価の高い科目の授業運営などの工夫なども参考にしていきたい。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.9	0	0	1	16	68	59	<p>[学生]</p> <p>平成 22 年よりスコアは徐々に上がって来ている。問 1(シラバスの確認)に関しては、日ごろから授業の中でシラバスに触れるなどしていきたい。</p> <p>問 2(授業への積極的な取り組み)は 徐々に点数が上がってきた。今後も出席、自宅学習と合わせて評価を上げていきたい。</p> <p>問 3(出席状況)は今回初めて 4.3 という高得点であった。今後もこの結果を維持できるよう積極的な出席を促したい。</p> <p>問 4(授業外での学習)は、宿題も含まれることになって以来、4 点台をキープしているが、さらなる自発的な学習を促したい。</p>
2	4.1	0	0	0	7	49	88	
3	4.3	0	0	0	2	20	122	
4	4.1	0	0	0	3	37	104	
5	4.0	0	0	2	6	41	95	<p>[授業[内容]]</p> <p>授業内容に関する 2 つの設問に関しては、問 5, 6 ともに、全体より 0.1 低いスコアであったが、平成 22 年からみるとスコアは上昇しており、落ち着いている。</p>
6	4.0	0	0	4	11	52	77	
7	4.0	0	0	5	10	43	86	<p>[授業[教え方等]]</p> <p>スコアが 3 に満たなかった科目が数科目あり、自然科学系、哲学系、実習系が含まれており、学科の守備範囲が広いことも影響があろう。</p> <p>問 6 と問 7 は特に相関が高く、授業内容の理解度が低いことが、他のスコアにも影響を与えていることが読みとれる。その中で、教員が話し方や番所、資料などで工夫しているのが現状である。</p> <p>視聴覚設備や UPSHOWA の有効利用など、授業運営にさらに工夫を加えていきたい。</p>
8	4.1	0	0	3	9	37	95	
9	4.0	0	1	3	14	40	85	
10	4.0	0	0	3	11	46	84	
11	4.1	0	0	0	5	33	106	<p>[環境・設備等]</p> <p>学習環境に関して、教室などが狭いと言った声が上がっても、十分な広さの教室に変更できない現状がある。</p> <p>図書館の整備とその利用に関しては、今後とも 学生に対するアドバイスを行っていきたい。</p>
12	3.8	0	0	0	25	79	40	

3. 今後の方針

学科の平均を平成 22 年度から見ていくと、少しずつ評価が上がっているか、あるいは現状維持であった。0.1 ポイントの上下に一喜一憂するのではなく、トータルとして学生がしっかりと力をつけられるよう、教員側もスキルを磨き、学生の自覚も促していきたい。

問 3 (学生の出席状況)、問 5 (シラバスに沿って授業が行われたか) についてのスコアが大学全体よりも低いので、学生への声掛けや、授業内でのシラバスの確認・有効利用を図っていきたい。

問 12 (図書館の利用、関連図書の充実について) は、今後とも参考図書の整備を続け、引き続き各授業での図書館利用アドバイスをおこなっていききたい。また、各教員による図書の推薦も積極的に行いたい。

学生の理解度が上がりにくい科目群の一部については、習熟度別のクラスにしている科目もあるが、さらに少人数化をはかりたい。今後も可能である限りこの方針で、教員の配置を行っていききたい。

1. 概評

昨年度後期と比べて各項目の平均値は横ばいか増加傾向を示して依然高い得点を維持しており、学生の高い学習意欲や積極的な取り組み姿勢を反映していることが窺える。

学習環境は良好と評価されているが、参考図書等についての評価は4点に達しておらず、授業外での学習を一層促すためにも、図書の充実が望まれている。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.8	0	0	0	5	37	22	<p>【学生】</p> <p>全ての項目の平均値は昨年度前期と変わらない同じ高い数値を示し、学生の高い学習意欲が維持されていた。</p> <p>管理栄養学科で開設している科目の多くは資格取得のための必修科目であり、積極的な取り組みができるか否かによって管理栄養士国家試験合格率は大きな影響を受ける。そのため出席率は高く、授業以外での自主的な学習にも十分取り組んでいる。評価すべき事である。</p> <p>教員による指導・支援の一層の充実を図り、授業内外での自主的な学習行動の充実につながるよう、教員に一層の支援を要請してゆきたい。</p>
2	4.2	0	0	0	1	7	56	
3	4.6	0	0	0	0	0	64	
4	4.1	0	0	0	3	23	38	
5	4.0	0	0	0	1	29	34	<p>【授業【内容】】</p> <p>これらの平均値はいずれも、昨年度後期に比べて0.2上がっている。学生は授業内容に対する関心を高め、授業内容を理解しようと努力していることが窺える。</p> <p>シラバスの確認及び授業の事前準備を、引き続き学生に指導してゆく</p>
6	4.0	0	0	3	5	18	38	
7	4.0	0	0	3	5	14	42	<p>【授業【教え方等】】</p> <p>これらの平均値は昨年度後期と比べてやや高値を示した。質の高い内容をわかりやすく授業できている教員の努力実態が垣間見える結果である。一方、教え方の評価は、受講学生数と教室の広さ、静粛性、設備などの状況によっても影響を受ける。この高い数値は、施設設備が少しずつではあるが、充実してきていることと無関係ではない。</p> <p>授業内容に興味を持たせる教え方の工夫と共に施設面での充実を図ってゆくことが必要である</p>
8	4.1	0	0	0	6	9	49	
9	4.0	0	0	0	6	19	39	
10	4.0	0	0	0	7	15	42	
11	4.2	0	0	0	1	14	49	<p>【環境・設備等】</p> <p>これらの平均値は昨年度後期と比べてほぼ横ばいの高い数値である。設備品は徐々に充実してきているが、充分であると感じていない学生も少なくない。</p> <p>専門領域図書の一層の充実および特に老朽化した実験室設備の更新など、教員からも要望を積極的に出してもらおうよう、要請してゆきたい。</p>
12	3.9	0	0	0	6	34	24	

3. 今後の方針

本学科は管理栄養士養成を目指しており、資格取得に関わるカリキュラムの一層の充実が求められる。ほとんどの学生は管理栄養士国家試験合格を目指しており、学習目的は明確で学習意欲は極めて高い。これら学生の要求を満足すべく、来年度はカリキュラムの見直し作業を開始し、教育レベルの一層の向上に取り組む。

管理栄養士は食べ物を中心として、心の問題から分子レベルのメカニズム解析に至る極めて幅の広い知識と技能を修得していなければならない。化学や生物学はこれらの基礎となる領域であり、これら科目の学力を高める取り組みが欠かせない。現在行っている入学前教育(化学)を今後も継続し、基礎学力向上を目指した取り組みを行ってゆく。

管理栄養士の主な活躍の場である病院では、チーム医療が行われており、医学英語のスキルが必要とされることが多い。又世界で活躍できる管理栄養士となるためにも高い英語力が必要とされる。来年度から管理栄養学科は、専門科目としての英語を学科開講し、管理栄養士として要求される専門英語の教育を開始する。

1. 概評

1～4年生定員一杯の状態で行うようになって2年が経過した。1年生は新カリキュラムの授業で、専門基礎がすべて必修化された。全体としてみると、ほとんどの科目が資格必須または領域必須になっているので、学生による科目選択の余地はそれほど大きくはない。これに関しては、これまでと同様に授業評価に反映されたと考えられる。

(学生)シラバス確認は、前年度に比べて、ほとんど変化がないと言って差し支えないと考えられるが、まだ十分とは言えない。これは多くの授業が、領域必須であるため、選択の余地がそれほど大きくないことが原因と考えられる。そのほかの項目についても顕著な変化はないように読み取れる。

(授業)全体的に平均的な評価であったが、昨年度実施した一部の基礎科目で到達度別のクラス分け授業を今年度はやめたが、学科平均の数値に大きな変化はなかった。

(環境設備等)教室などの学習環境の評価は平均的であるが、参考書についての評価は依然として高いとは言えない状態であったため、一層の充実が望まれる。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.7	0	0	0	16	29	16	[学生]シラバス確認についての評価に変化はないが、まだ高いとは言えないレベルである。出席についての評価は引き続き高く、栄養士養成に学ぶ者としての意識の高さが覗かれる。実験実習科目での評価が高く、講義科目での評価が高い傾向にあるのは例年通りであるが、継続的に思考や検索手段についての指導もしていきたい。
2	4.1	0	0	0	3	17	41	
3	4.5	0	0	0	0	1	60	
4	4.1	0	0	1	3	20	37	
5	4.0	0	0	0	2	20	39	[授業[内容]] 全体的に平均的な評価であった。科目選択の余地が少ない状況であるが、本学科の目的ははっきりしている為、授業の取り組みの姿勢、意識が保持されていると考えられる。
6	3.9	0	0	1	6	24	30	
7	3.9	0	0	5	5	19	32	[授業[教え方等]] 全体的に平均的な評価であった。授業内容の評価について、基礎科目で低評価になる傾向があったが、今後この点についての分析をしていきたい。
8	4.0	0	0	1	7	17	36	
9	3.9	0	0	1	10	20	29	
10	4.0	0	0	0	7	22	32	
11	4.1	0	0	0	1	18	42	[環境・設備等] 教室設備についての評価は、平均的であった。一部の授業では、低い評価が認められるが、学生数の多い教科では十分ではない環境で実施せざるを得ない状況があったと考えられる。
12	3.8	0	0	0	9	29	23	

3. 今後の方針

本学科は、資格関連の科目が大部分を占め、クラスごとに履修が同じ科目が多い。また科目名から内容がほぼイメージできる等の理由によって、学生はシラバスを十分に見ることなしに授業に参加する傾向が強いと考えられる。授業に対する取り組みや出席状況は、概ね良好であり評価は高い。今後資格関連科目、選択科目ともに、授業への能動的かつ積極的な参加と学習意欲の更なる向上を図る事を目的として、将来設計を含めた情報の提供を継続促進し、評価が向上するように努める。その意味で今年度からのカリキュラム改訂の影響を注意深く観察していきたい。また基礎科目群、資格関連の基礎科目の授業評価がやや低い傾向にある事から、指導體制の充実やカリキュラム改訂の効果の検証を行い適宜改善を行いたい。今後とも学生の学習意欲向上や実力向上につながる指導方法、環境整備などを学科内の教員個人に加え、科会等での活発な情報交換により行っていきたい。

1. 概評

評価の平均点にどの分野も大きな変化はなく、とても点数の悪い項目もない。専門科目に比べると、学生の履修に対する考え方にもばらつきがあり、本当に履修したい科目を履修しているとも限らない。現在検討している「教養教育の見直し」により教養教育の履修モデルを示すことで、学生自身の教養教育に対する考え方や履修に対する姿勢を少しでも変えていくことができればと思っている。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.8	0	0	1	9	72	42	【学生】 出席状況の評価が 4.4 の最高値である。学生は良好な出席を維持している。 しかし、シラバスで授業内容を確認したかという評価が 0.1 下がっているため、履修計画をする際にきちんと確認するように注意を喚起したい。 一般教養科目は専門科目と違い、学生の取り組み方もいろいろ違っている。来年度の新入生には、「教養教育科目の履修の手引き」で、履修の考え方を周知し、シラバスと便覧のナンバリングも活用して、4 年間を見据えた履修を計画できるように説明していきたい。
2	4.0	0	0	0	5	54	65	
3	4.4	0	0	0	0	3	121	
4	3.9	0	0	5	12	52	55	
5	4.1	0	0	1	5	32	86	【授業[内容]】 問 06 の授業の内容が理解できましたかの平均が昨年度後期に引き続き 4.0 であった。これまでこの問グループの 2 項目は平均 4 という数値を維持しており、シラバスに沿った授業が展開されていると思われる。わずかであるが、わかりやすい授業の工夫の検討が必要と思われる科目も見受けられる。
6	4.0	0	0	4	10	46	64	
7	4.1	0	0	3	12	31	78	【授業[教え方等]】 問 08 の「話をよく聞き取れましたか」が前期より学科平均で 0.1 下がりに 4.1。問 10 の「配布資料、教材等が効果的でしたか」も前期より 0.1 下がりに 4.0 であった。説明の明快さや、板書、OHP、Power Point は授業を理解する上で、効果的であったかという評価平均点は、前回の結果と同じだった。 一定の評価が得られていると思うが、学生に理解しやすい教授方法など更なる講義内容、講義方法の検討を先生方にも依頼し、取り組んでいきたいと思う。
8	4.1	0	0	1	9	33	81	
9	4.0	0	0	5	15	30	74	
10	4.0	0	0	5	6	34	79	
11	4.1	0	0	0	5	40	79	【環境・設備等】 本年度平成 26 年度より新しい教室へ変更した科目もあったが、評価の平均点は前回と同じであった。教室によっては、定員に対する適正受講者数であっても窮屈を感じる教室もあり、変更の申し出もある。受講者数と考え合わせ、検討していきたい。
12	3.8	0	0	0	10	84	30	

3. 今後の方針

「教養教育の見直し」の中で、教養教育科目の履修方法に、深掘型、幅広型、発展型の履修モデルを提示し、空いている時間を埋めるという考え方から、建設的に履修する考え方を理解させたい。また 3,4 年の上級生を対象として、さまざまなカテゴリーを総合した、学生が主体となって関連の書籍や資料を自ら探し、分析し、互いに議論を戦わせてテーマを追求する「総合教養科目」を開設予定である。順次性を持ち、段階的に積み上げる教養教育を体系化していくことを目的とし、取り組んでいきたいと思う。

1. 概評

全体の評価（全項目の平均値）は、4.058で昨年より高くなり、概ね良好と言える。但し、アンケートの度に常に評価が相対的に低い、項目1「シラバスの確認」は横ばいである。項目9「板書、Power Point などによる授業効果」や項目11「学習環境」、項目12の「参考図書の充実」に関しては、それぞれアップしている。シラバスの充実及び授業での確認及び参考図書の充実に関しては、今後とも目下鋭意充実を図っているところである。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.7	0	0	2	59	84	60	<p>【学生】</p> <p>評価の数値は、前回と同じ。</p> <p>項目1（シラバスの確認）の低い評価に対する対策は、実際に予習・復習に活用できるシラバスを作成することに尽きる。このことは、外国語科目の場合、「言うは易く行うは難し」であるが、引き続き検討していきたい。</p> <p>項目2～4の評価の分布については、依然としてどの項目も圧倒的に高い評価で昨年度よりもさらに上がっている。学生は自身の授業の取り組みを高く評価しているが、教員の立場からすると、客観的な評価とは見做し難いように思う。</p>
2	4.1	0	0	0	2	56	147	
3	4.4	0	0	0	2	14	189	
4	4.1	0	0	1	7	50	147	
5	4.0	0	0	0	8	74	123	<p>【授業【内容】】</p> <p>「授業内容はシラバスに沿って行われたか」、「理解できたか」などの項目についても昨年に比べて数字は上がっていることから教員の努力や学生の学習意欲も高く評価する。引き続き授業内容の充実を心掛けていきたい。</p>
6	4.0	0	1	2	25	58	119	
7	4.1	0	2	4	11	52	136	<p>【授業【教え方等】】</p> <p>教員の授業の仕方に関する評価が上がっているのに対し、クラス内での学生の積極性が下がっていることが気になる。もっと学生にアクティビティーをさせるような授業改善を検討する。</p>
8	4.2	0	0	4	13	40	148	
9	4.0	0	0	4	15	59	127	
10	4.0	0	0	2	14	59	130	
11	4.3	1	0	0	1	26	177	<p>【環境・設備等】</p> <p>学習環境を問う項目11は、4.3であるが、可能な限りひとクラス30名（会話クラス20名）以下に設定している点が評価されているか。更に少人数を心掛けたい。</p> <p>本学図書館の資料については益々の充実が求められる。</p>
12	3.8	0	0	1	22	118	64	

3. 今後の方針

4年の在学期間にわたって持続的に外国語の学習が可能となるように、教養科目の10単位ほどを外国語の単位に振り分けること(2年目以降の外国語科目の教養科目化(2単位化))が可能か否かを今後も検討する。

少人数クラス(1年対象クラス30名以内、2年生以上対象クラス20名以内)の方針を今後とも堅持していく。

1. 概評

教職課程の科目は殆どすべてが必修科目であり、学生は科目の内容に興味関心を持って履修を始めるのではない。しかし教職を希望する（あるいは教員免許取得を目指す）学生であれば、教育や学校・教師について何らかの課題意識や関心を抱いているはずであり、それを顕在化・意識化させることが求められる。

今年度初めに教職課程独自の授業アンケートを実施したが、多くの科目で意見交換・発表や模擬授業等が行われていることが確認できた。本アンケートでも全体として4以上の評価が多く、平均もすべての項目で4を上回っているのは、その成果であると考えられる。

今後は、下級学年で履修する大人数の授業で、学生が主体的に参加できる授業をさらに追求していくことが課題である。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	4.2	0	0	0	1	7	23	【学生】 No1(シラバスの確認)が、昨年度より下がっている。授業の進行の折に触れて、シラバスを参照するように働きかけることで、学生が授業の全体像をつかみながら個々の授業に臨むことができるようにすることが求められる。No4(授業外での学習)も昨年度より若干下がっている。学生が授業外で学習をしなければ授業に参加できないような工夫(例えば「反転授業」的な手法の導入)が必要であり、今後研究・実践を行う。
2	4.4	0	0	0	0	4	27	
3	4.6	0	0	0	0	0	31	
4	4.3	0	0	0	0	1	30	
5	4.3	0	0	0	1	3	27	【授業[内容]】 授業内容についても、昨年度より若干ではあるが下がっている。全体としては良好であると考えているが、評価の低い科目については個別の対応を行っている。また昨年指摘したように、「シラバス通り」に行うことが全てではなく、学生の状況によって臨機応変に対応することも求められる。その場合には、十分に事前説明をすることが必要である。
6	4.3	0	1	0	1	4	25	
7	4.3	1	0	0	1	4	25	【授業[教え方等]】 この領域は「明快さ」「話し方」「メディア活用」「資料・教材」に関わるが、評価の高い科目と若干低い科目の二極化傾向が見られるようである。後者については、授業参観を行ったり、担当者との意見交換を行ったりすることで、学生が理解しやすい授業を目指す。 同時に教職科目として、学生が教え方を学ぶための参考となるような授業モデルの提示を行う。
8	4.4	1	0	0	1	3	26	
9	4.2	1	0	0	1	4	24	
10	4.3	1	0	0	1	4	25	
11	4.4	0	0	0	1	3	27	【環境・設備等】 教室の空調施設が改善され、授業環境について大きな問題はなかった。図書館の資料の充実については、必要な図書資料の購入を積極的に求めていくと同時に、学生がそれを十分に活用できるようになるための指導を強化する。
12	4.1	0	0	0	1	8	22	

3. 今後の方針

全体としては概ね良好であるので、今後ともこれを維持していく努力を続けていく。

授業の内容や方法については、個別の科目の実施状況をより一層把握し、改善を図る。また専任教員と非常勤教員との連携をより一層密にし、授業や学生の状況についての情報共有を行う。

授業外においても、教職を目指す学生のための指導の場を既に設けているが、これをより一層充実し、教職課程の指導力を高めていく。